



写真提供：薩摩川内市（甑大橋）

発行（公財）鹿児島県国際交流協会 Kagoshima International Association

鹿児島・全羅北道文化交流事業



【できあがったトレーを持って全羅北道のみなさんと】

令和2年11月1日に鹿児島県の友好交流都市である全羅北道の国際交流センターとオンラインで結んで、同道の魅力や文化を紹介する講座を県内の保護者と児童24名を対象に開催しました。

第1部は、セマングム公共外交団のボランティアスタッフの方が写真や絵を使い、全羅北道の伝統的な家屋群や有名な料理のビビンパ（韓国混ぜ飯）、観光地などを紹介しました。

第2部は、韓国の伝統的な紙『韓紙（はんじ）』を使ったトレー（茶卓皿）を参加者に実際に作ってもらいました。全羅北道は、今も韓国全体で8割近くの韓紙を生産しています。韓紙工芸家の模範製作を手本に、皆さん素敵な作品ができあがりました。参加者からは「全羅北道にいつかみたい。」「実際に会うことはできなかったけど、オンラインで韓国のみなさんと話せて楽しめた。」「伝統工芸品を学んだあとに、実際に作れたのがよかった。上手に出来ました。」と満足していただきました。来年度は『鹿児島』を全羅北道に紹介します。

やさしい日本語普及啓発事業



【講座の様子】

令和2年10月6日に、県内で活躍する日本語教師の方を講師にお迎えして、『やさしいにほんご理解講座』を開催しました。

今回は日常業務の中で外国人の方の申請や手続きをサポートすることの多い行政職員や、市町村の国際交流協会、鹿児島労働局、福岡出入国管理局鹿児島出張所、教育委員会、鹿児島県観光連盟などから30名の方々に参加していただきました。

今回の講座では、『やさしい日本語』とは何か、その効果は、また、『やさしい日本語』に変換する際、どんなことに気を付けるべきかを学んだ後、ニュース記事に書かれた日本語を実際にやさしい日本語に変換する演習を行い、講師による回答例と照合しました。

参加者からは「やさしい日本語を聞いたことがあったけれど、実際にやさしい日本語を作ってみると難しかった。」「これから情報発信するときには活用してみたい。」などの感想が寄せられました。

災害時における外国人支援講座



【ワークショップの様子】

令和3年2月27日に、「災害時における外国人への情報伝達訓練」をテーマとした講座を開催しました。

NPO 法人多文化共生マネージャー全国協議会の講師と会場をオンラインでつなぎ、自治体や各種学校・団体の担当者ら約30名が分かりやすい情報伝達法である「やさしい日本語」を実践的に学びました。まず、講演で「災害時に外国人が抱える課題と対応」や「災害時の外国人被災者支援活動」、「やさしい日本語」について学び、その後に行われたワークショップでは、実際に新型コロナ

禍の避難所で使われた掲示文を、やさしい日本語に書き換える訓練を行いました。

参加者から「目的は情報を伝えること。『やさしい日本語』と固く考えるのではなく、どうすれば相手に伝わるか考えることが大事だと学んだ。」などの感想をいただきました。今回の講座が災害時や平時での情報伝達として外国人支援につながるようお願いしております。

ベトナム理解講座・ベトナムを知るおしゃべり会



【ベトナム理解講座の様子】

県内に在住する外国人のうち、人数が一番多い国ベトナムの歴史・文化・習慣や鹿児島でのベトナム出身者の暮らしぶりなどを紹介し、日越両国の類似点・相違点を理解することにより、鹿児島における多文化共生の地域づくりを推進することを目的に、『ベトナム理解講座』と『ベトナムを知るおしゃべり会』を実施しました。

ベトナム理解講座は、8月に2回実施し、延べ63名の参加がありました。第1回は『ベトナム基礎知識』、第2回は『ベトナム人の生活感・仕事観』と題して、ベトナムについての基礎情報や

世界遺産、またベトナム出身者4名をゲストにお招きして、出身地域の紹介を行いました。

ベトナムを知るおしゃべり会は、11月から翌年2月までに3回実施し、『ベトナムの若者流行事情』、『ベトナムの家族生活』、『ベトナムあるある』というトピックで参加者と意見交換を行いました。参加者から「自分では知り得ない情報を知ることができてよかったです。」などベトナムへの理解を深めたことが感じられる感想をいただきました。

料理を通じて多文化共生を学ぶ研修会



【チヂミづくりの撮影中】

鹿児島に住む外国人の方と日本人の方が一緒に料理を作り、多文化共生を学んでもらうことを目的として研修会の実施を計画していましたが、新型コロナウイルス感染症防止のため、今年度は在住外国人3名の協力をいただき、動画を作成し、当協会のホームページで公開しました。

“鹿児島で手に入る食材で手軽に作れる家庭料理”をテーマに、韓国、イギリス、そしてハンガリー出身の方々に、それぞれの国の料理を紹介していただきました。また、料理の歴史や現地の人々の料理に対する思い、食材や食事のマナーなども紹介していただき、料理

を作るだけでなく母国の文化についても学べるよう工夫をしました。

作成した動画は当協会のホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。また、皆さまも自宅で外国の家庭料理を作り、味わいながらそれぞれの国の文化に触れてみてはいかがでしょうか。

公募型国際理解講座



本事業は、県内に在住する外国人の方に公募により、講師になっていただき、県民の方々に自国の文化を紹介することを通して、在住外国人の方々が積極的に多文化共生の地域づくりに関わることを目的としています。今年度は、在住外国人の方々から多数の応募をいただきました。その中から、中国・内モンゴル自治区、ベトナム、台湾、フィリピンご出身の方々に講師を務めていただき、それぞれの地域の文化紹介講座を開催しました。

各講座では、それぞれの出身地域の基本的な事柄の紹介だけでなく、伝統楽器の演奏や、伝統的な布を使った小物づくりを行うなど、バラエティーに富んだ内容となりました。参加者からは「一度は行ってみたいくなった！」や「異文化は知らないことばかり、知ることができて楽しかった。」などの感想をいただきました。



また、それぞれの講座では、毎回、講師の方が日本に来て、驚いたことや戸惑ったことについての紹介があり、参加者からは、笑いや驚きの声も聞かれました。日本人には、当たり前のことでも、外国人にとっては戸惑うことの多い日本文化や習慣についても気づかせてくれた講座となりました。

今後もこのような講座を通じて、在住外国人と日本人がお互いの文化を紹介し、相互に理解・尊重し、共に生きる社会の実現につながるよう期待しています。



英語絵本のよみかたり



幼少期から英語に触れる機会を提供することで英語への関心を高めることを目的とし、3才から小学校低学年までの子どもを対象に、県国際交流員による『英語絵本のよみかたり講座』を実施しました。今年度は、9回実施し、そのうち1回は出張講座として南九州市で行いました。

新型コロナウイルス感染症防止のため、例年よりも参加者を制限しての開催となりましたが、ソーシャルディスタンス確保のため、すべての絵本をプロジェクター投影に変更したところ、臨場感あふれる絵本のよみかたりとなり、予想以上に子ども達にも楽しんでい

いただきました。また、少人数の開催で、講師が子ども達と十分にコミュニケーションを図ることもできました。

コロナ禍においても工夫を凝らし、今後も子ども達にとって楽しく英語に触れる機会となるよう開催していきたいと思います。

国際交流員による文化紹介講座



【講座の様子】

令和2年度は、薩摩川内市と姶良市において、県国際交流員による文化紹介講座を開催し、合わせて47名の方々にご参加いただきました。

両講座ともに、イギリス出身の県国際交流員による『イギリス文化紹介講座』が実施され、クイズを交えながらイギリスの基本情報や文化、講師の出身地のマンチェスターについて紹介がありました。

参加者からは「なかなか知ることのないイギリスの様々な地域の様子を聞くことができ、とても良かった。」といった感想が聞かれ、

また、文化紹介後の質疑応答では、多くの質問が寄せられ、イギリスへの関心の高さが窺えました。

今後も多くの県民の皆様へ国際理解・国際交流への理解を深めていただくべく、県内各地で講座を開催してきたいと思います。

日本語・日本理解講座



【趣味のけん玉の技を披露】

鹿児島で生活する外国人が、日常生活に役立つ日本語や日本の習慣などについて学ぶ『在住外国人のための日本語・日本理解講座』を令和2年5月から令和3年2月まで全60回（水曜昼間クラス30回、木曜夜間クラス30回）実施しました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症防止のため、受講者同士の距離を保った学校形式で行いました。講座は、少人数に分かれて、絵本を使って読む・聞くことに親しみながら語彙の習得をしたり、作文を書き、書くことへの積極性を学んでもらう方法で進められ、

様々な側面から日本語を学びました。

また、自分自身を日本語で紹介する講座の時は、趣味や特技のモノを実際に見せたり、地図やイラストを描いて説明したりと、受講者自身がそれぞれに工夫を凝らしながら日本語で発表しました。

コロナ禍の中、制限がありましたが、受講者は意欲的で、学んだ日本語を使って楽しそうに会話をする様子が印象的でした。

日本語サロン おしゃべりひろば



【日本のマナーについて話す様子】

日本語の日常会話が可能な外国人を対象に、お互いのネットワークづくりや日本語の上達を目的とした『日本語サロンおしゃべりひろば』を今年度は全15回行いました。

前期はゲストと参加者が集まり、対面式で実施しましたが、後期からはZOOMを利用し、オンラインで行い、参加者がゲストとしてお話しする試みを取り入れました。維新ふるさと館の方には、『薩摩スチューデント』をテーマに鹿児島の歴史についてお話ししていただき、また鹿児島中央警察署の方や、マナー講師の方からは日本や鹿児島で生活する上で役立つ情報をテーマに、話題を提供していただきました。また、おしゃべりひろばの参加者の方にも『日本のアニメ文化』というテーマで話していただき、日本のアニメが

アメリカでどのように広まったのかなどについてお話ししてもらいました。新しい生活様式になり、様々な変化が起きた1年でしたが、おしゃべりひろばが人との交流の場となり、日本語学習の意欲にも繋がっていくことを期待します。

～鹿児島で世界を語ろう～第26回外国人による日本語スピーチコンテスト



【本選出場者と審査員】

今年度の日本語スピーチコンテストには、17名(7カ国・地域)の県内在住の外国人が予選に出場し、その中から10名(5カ国)が、令和3年1月30日に行われた本選で発表しました。『結婚？ちょっと待って』というタイトルでスピーチをしたネパール出身で神村学園専修学校のブサルハリさんが最優秀賞を受賞しました。留学生生活を通じて自分に自信を持ち、もっと経験を積みたいと考えようになったハリさん。ネパールの結婚適齢期に近づき、両親は気にかけているが、心も体もさらに大きく成長してから結婚するという強い思いを発表してくれました。これまで学んできた日本語で自身の経験や思いを堂々と語る出場者の皆さんの姿からは、様々な体験を通して、日本で頑張ってきた様子がいきいきと伝わり、聴衆の皆さんも心を掴まれているようでした。

協力隊OBと留学生が先生事業



【授業の様子】

鹿児島県青年海外協力隊を支援する会、青年海外協力隊鹿児島県OB会と当協会の3団体で実施しているこの事業は、年間約40校の小・中学校に青年海外協力隊として活動していた帰国隊員や県内に在住する留学生などの外国人を講師として派遣しています。この事業は、協力隊OBによる海外での活動体験の話や留学生など外国人との交流により、国際協力・国際理解を学ぶことを目的にしています。

今年度は新型コロナウイルス感染症防止のため、従来の交流型の授業ではなく、写真や動画を使って、体験談やその国の文化を紹介したり、民族衣装を披露したりと、教科書だけでは知り得ない事柄を紹介しました。児童・生徒からは「日本の学校と違いが沢山あって驚いた。」「将来は協力隊として海外で活躍したい。」などの感想が聞かれました。

事業を通じて、海外へ目を向けたり、今後の夢について考えたりする良い機会となったようです。

鹿児島県青少年国際協力体験事業



【座談会「私にとっての体験事業」の様子】

本事業は、県内の中高生を開発途上国へ派遣し、青年海外協力隊の活動現場視察やホームステイなどの交流を通して、国際協力に対する理解を深め国際性豊かな人材の育成を図ることを目的としております。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、派遣は見送りとなりましたが、当事業への理解を深めてもらう機会として、県内の中高生、保護者、教員を対象に『鹿児島県青少年国際協力体験事業から見える世界』と題し、上映会と座談会が開催されました。

第1部の上映会では、故中村哲医師の国際協力の取組みを描いた『アフガンに命の水を～ベシャワール会26年目の闘い～』を上映し、第2部の座談会『わたしにとっての体験事業』は、現在、大学生や社会人となった体験事業経験者がパネリストとして登壇し、体験事業参加時の感想や、その後の自分自身の気持ちの変化、進路等にどのような影響をもたらしたのかなどについて話をさせていただきました。3名のパネリストは、口々に「失敗を恐れず、どんなことにも挑戦してほしい。」というメッセージを中高生に伝えていました。参加者からは、「国際協力で大事なことを教えてもらった。」「先輩方の経験談を聞いて、進路や自分の今後の生き方についても考える良い時間となった。」「“挑戦することの大切さ”を子どもに伝えたい。」などの感想をいただき、パネリストの想いは、参加者の心に十分届いたようでした。

今後も当事業が、県内の中高生の国際協力や異文化への理解の促進に寄与するよう努めていきたいと思っております。

JICA 情報

いつか世界を 変える力になる。世界を変えてきたのは、
いつの時代も、たったひとりの強い想いだ。



【JICA 海外協力隊】

JICA 海外協力隊とは、開発途上国からの要請に基づき、
青年海外協力隊員等として派遣され、現地の人々と共に途上国の課題解決に取り組
むことを目的としています。

【国際協力を仕事にしたい・・・そんな方へ！】

国際キャリア総合サイト「PARTNER」では、国際協力・国際キャリアに
関する情報が掲載されています。さらなるキャリアアップを目指したい方、
国際協力の分野でグローバルに働きたい方、ぜひ一度ご覧ください。

.....
鹿児島県国際交流協会内に JICA 事業の窓口として
「JICA デスク鹿児島」が常駐しています。
お気軽にお問合せ下さい。(オンライン対応可)
< JICA デスク鹿児島 > TEL : 099-221-6624
E-mail : jicadpd-desk-kagoshimaken@jica.go.jp
.....



「PARTNER」
QR コード



【海外青年協力隊】

国際交流プラザのご案内

- ・ イベント情報等の掲示板
- ・ 国旗、民族衣装、地図、ユニセフビデオの貸し出し
- ・ 外国語新聞、図書、雑誌等の閲覧
- ・ 中国語ランチタイムトーク (毎週火曜12:00 ~ 13:00) 令和2年度は休止
- ・ 韓国語ランチタイムトーク (毎週水曜12:30 ~ 13:30)
- ・ ランチタイムイングリッシュクラブ (毎週金曜12:00 ~ 13:00)



【国際交流プラザ】

○国際交流に関する問い合わせやホストファミリー・語学ボランティアの登録については、随時受け付けておりま
す。お気軽にお立ち寄りください。

【外国人総合相談窓口（鹿児島県国際交流協会内）】

県内にお住まいの外国人の方々が、在留資格や雇用、医療、福祉、出産・子育て、子どもの教育などの生活に関
する適正な情報や相談場所に迅速に到達できるよう、多言語で情報提供や相談を行っています。

○相談方法：面接、電話、メール、Facebook メッセンジャー
TEL : 070-7662-4541 / E-mail : kiasoudan@gmail.com
相談窓口 facebook : <https://www.facebook.com/Kiasoudan>



相談窓口 facebook
QR コード



【イメージ図】

○対応言語：英語・ベトナム語など20言語での相談に対応しています。

【国際交流プラザ、本誌に関する問い合わせ先、相談窓口】 公益財団法人 鹿児島県国際交流協会

〒892-0816 鹿児島市山下町14番50号 かごしま県民交流センター1階

TEL: 099-221-6620 / FAX: 099-221-6643 E-mail: kia@kiaweb.or.jp

HP: <https://www.kiaweb.or.jp> Facebook: <https://www.facebook.com/Kagoshima.Intl.Assoc/>

《開館時間》9:00 ~ 17:00 (火曜日~日曜日) 《休館日》月曜日(但し祝日の場合はその翌日) / 年末年始(12月29日~1月3日)

